

雑誌名 (発行年月)	題 名	発表者名 (著者名)	所属部門
Medical Practice (2008.4)	IV救急・応急処置の実際/A救急・応急処置を必要とする病態と処置法 急性心不全	松井 忍	先進医療研究部門
Journal of Molecular and Cardiology (2008.4)	Amelioration of myocarditis by stain through inhibiting cross-talk between antigen presenting cells and lymphocytes	Shinobu Matsui	先進医療研究部門
International Journal of	Involvement of thymus in amiodarone-treated autoimmune myocarditis in rats	Shinobu Matsui	先進医療研究部門
腎と透析 血液浄化療法2009 (2009. 2)	血液浄化療法の臨床 単純血漿交換・二重膜濾過血漿吸着-脂質代謝・循環器疾患 103. その他(心不全・心筋症)	松井 忍	先進医療研究部門
Tohoku J. Exp. Med. (2008. 4)	Quantifying nanomolar levels of nitrite in biological samples by HPLC-Griess method: Special reference to Arterio-Venous difference	石橋隆治	生体情報薬理学
Biol. Pharm. Bull. (2009. 3)	Arteriovenous differences in NO <sub>2</sub> - kinetics in anesthetized rabbits	石橋隆治	生体情報薬理学
日本白内障学会誌 (2008.6)	電波曝露が眼に及ぼす影響について	小島 正美	総合医学研究所 環境原性視覚病態研究部門
Physics in Medicine and Biology (2008.6)	Computational model for calculating body-core temperature elevation in rabbits due to whole-body exposure at 2.45GHz	Masami Kojima	総合医学研究所 環境原性視覚病態研究部門
Blood (2008.9)	Impaired function of human T-lymphotropic virus type 1 (HTLV-1) —specific CD8+ T cells in HTLV-1—associated neurologic disease	M.Saito	生体感染防御学
Retrovirology (2009.2)	In vivo expression of the HBZ gene of HTLV-1 correlates with proviral load, inflammatory markers and disease severity in HTLV-1 associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP)	M.Saito	生体感染防御学

小計 10件

計 93件

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長	飯 塚 秀 明
管理担当者氏名	病院事務部事務長	古 居 滋

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		管理課 薬剤部 看護部 中央放射線部 医療情報部 医事課	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号（7桁）を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院職員課	/
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	病院職員課	
	閲覧実績	管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部	
体制確保の状況 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全部（医療安全管理部門）	/
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全部（感染制御部門）	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全部（医療安全管理部門）	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全部（医療安全管理部門）	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部（医療安全管理部門）	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部（医療安全管理部門）	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部（医療安全管理部門）	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部（医療安全管理部門）	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全（感染制御部門）
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全（感染制御部門）
		従業員に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全（感染制御部門）
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全（感染制御部門）
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部
		従業員に対する医療機器の安全使用のための研修の状況	ME部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	(診療録関係) 医療情報部長 堀 有 行
	(管理・運営関係) 病院事務部事務長 古 居 滋
閲覧担当者氏名	(診療録関係) 情報管理課長 柴 山 卓 也
	(管理・運営関係) 管理課長 上 端 雅 則
閲覧の求めに応じる場所	カルテ閲覧室 ・ 管理課事務室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	57.6%	算定期間	平成20年 4月 1日 ~ 平成21年 3月31日
算 出 根 拠	A: 紹介患者の数		8,565 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,630 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,481 人
	D: 初診の患者の数		23,821 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (4名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員：専任 ( 7 ) 名 兼任 ( 15 ) 名</li> <li>・ 活動のおもな内容</li> <li>・ 医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会及び事故調査委員会、医療問題検討委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全対策委員会の庶務に関すること。</li> <li>・ 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>・ 診療情報提供に関すること。</li> <li>・ 医療安全相談に関すること。</li> <li>・ その他医療安全対策の推進に関すること。(病院全職員を対象とするもの、特定の部署の職員を対象とするもの等の職員研修の計画・立案・実施等)</li> </ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容</li> </ul> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針 (以下「指針」という。) は、医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの 3 部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。</p> <p>安全管理体制に関する関係規程は、リスクマネジメント規程、医療事故調査委員会規程、医療安全対策委員会規程、医療安全対策小委員会運営要領、医療安全対策部組織運営内規、診療情報提供に関する規程、患者相談業務に関する事務取扱要領を収載している。それぞれの規程には規程制定の趣旨・目的、委員の構成、審議事項等を定めている。</p> <p>医療事故防止に関する共通マニュアルは、患者誤認防止、伝達エラー、転倒・転落、身体抑制、小児静脈留置の固定、毒薬・ハイリスク薬の管理、抗がん剤治療のプロトコール、抗凝血薬と抗血小板薬の手術前防止、インスリン・スライディング・スケール入力、高濃度カ</p>	

リウム塩注射剤、類似薬品の入力、薬の患者自己管理、抗がん剤の血管外漏出対応、褥瘡対策マニュアル、中心静脈カテーテル挿入のための安全マニュアル、深部静脈血栓症・肺血栓症予防マニュアル、医薬品安全使用のための業務手順書、医療機器の安全管理体制の確保、機器管理、院内救急コールシステムマニュアル、個人情報保護について、電子カルテシステムの利用について、陽だまりルーム、相談窓口のご案内等 25 項目について記載し、共通の事故防止マニュアルとしている。

一方、部門マニュアルでは、薬剤部、内視鏡センター、救急医療センター、中央手術部、中央滅菌材料部、血液センター、中央臨床検査部、リハビリテーションセンター、21 世紀集学的医療センター安全対策マニュアル、栄養部、看護部等、臨床研修センター等 12 部署の安全対策マニュアルを記載している。

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

年 24 回

活動の主な内容

**\*医療安全対策小委員会：月 1 回開催（第 3 水曜日）**

医療安全対策小委員会は、内科系・外科系・小児科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の 18 名で構成され、医療安全管理者及び事務局から提出された当該部署に特有の事例を含め、各部門に共通するような代表事例について事例検討を行う。事例検討では、インシデントに至る状況、要因、影響、改善等について、医師・看護師等それぞれの職種の間で見た意見を出し合い、小委員会としても徹底的に分析・検討し、医療事故防止対策を検討する。また、その結果は医療安全対策委員会に検討事例、改善策として報告・提案するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。

**\*医療安全対策委員会：月 1 回開催（第 4 火曜日）**

医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャー（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）70 名で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果、改善策をそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME 部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について 2 グループづつ代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・リスクマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。

委員会の議事録及び資料は、各委員及び全リスクマネージャーに配付し、所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 22 回

・研修の主な内容

第1回 安全管理体制確保のための職員研修会

開催日 平成20年7月4日

テーマ 医療機関における医療安全対策

講師 遠山 芳樹 (株)スズケン カスタマーサポート部 コンサルティング課

第2回 安全管理体制確保のための職員研修会

開催日 平成21年1月23日

テーマ 活かそうインシデントレポート ―全員で行うインシデント検討会―

講師 中川 淳 (金沢医科大学病院 医療安全対策小委員会 委員長)

第1回院内感染防止のための教育講演会

日時 平成20年8月1日

テーマ 新しい隔離予防策のガイドライン

講師 井口 昌晴 (金沢医科大学病院 感染対策室 副部長、呼吸器内科 講師)

不動 政代 ( // 感染対策室 看護師長)

第2回院内感染防止のための教育講演会

日時 平成21年3月23日

テーマ HIV診療の現状と患者に対する初期対応について

講師 上田 幹夫 (石川県立中央病院 血液免疫内科部長)

山田 三枝子 ( // HIV専任看護師)

褥瘡対策講習会

日時 平成21年3月18日

テーマ 金沢医科大学病院における褥瘡患者の実態

講師 川上 重彦 (金沢医科大学病院 褥瘡対策委員会 委員長)

中村 徳子 ( // 褥瘡管理者)

新人職員研修会

開催日 平成20年4月2日

テーマ 医療安全管理体制の指針と医療事故の防止体制について

講師 前多 一美 (医療安全管理者)

新採研修医講習会

開催日 平成20年4月4日

テーマ 薬剤の処方と麻薬の取り扱いについて

講師 医薬品安全管理責任者

新人看護師研修会

開催日 平成20年4月7日

テーマ 安全管理体制について

講師 前多 一美 (医療安全管理者)

看護師研修会

開催日 平成20年5月30日、6月6日

テーマ 医療安全管理の目的と分析方法 (メデイカルセーフター) について

講師 前多 一美 (医療安全管理者)

#### 看護師宿泊研修会

開催日 平成20年9月12日～13日  
テーマ 医療安全管理の目的と分析方法（メデイカルセーフター）について  
講師 前多 一美（医療安全管理者）・看護部

#### 静脈注射手技・採血手技トレーニング

開催日 平成20年5月14・15日  
講師 機器納入業者

#### 輸液ポンプ・シリンジポンプトレーニング

開催日 平成20年5月28日  
講師 機器納入業者

#### 人工呼吸器・除細動器取扱い研修会

開催日 平成20年6月20日  
講師 機器納入業者

#### 看護師研修会

開催日 平成20年6月13日、7月24日  
テーマ 医療安全管理の目的と分析方法（メデイカルセーフター）について  
講師 前多 一美（医療安全管理者）

#### 看護補助員研修会

開催日 平成20年9月4・11日  
テーマ 転倒・転落防止シミュレーション  
講師 前多 一美（医療安全管理者）、看護副部長

#### 新人看護師研修会

開催日 平成20年9月18・26日  
テーマ 1. 転倒・転落防止シミュレーション  
2. 危険予知トレーニングについて  
講師 前多 一美（医療安全管理者）、看護副部長

#### 帰局員及び中途採用者研修会

開催日 平成20年12月8日  
テーマ 安全管理体制の指針及び電子カルテの基本操作について  
講師 前多 一美（医療安全管理者）・医療情報課担当者

#### 研修医・看護師対象の研修会

開催日 平成20年9月10日  
テーマ 麻薬・向精神薬の取り扱い  
講師 薬剤部担当者

#### 研修医・看護師対象の研修会

開催日 平成20年12月17日  
テーマ 注射についてのリスクマネジメント  
講師 薬剤部担当者



徐細動器、人工呼吸器操作取扱い研修会

開催日 平成20年6月20日、11月14日

講師 医療機器納入業者、ME機器医療安全管理者

電気メス取扱いセミナー

開催日 平成20年9月26日

講師 医療機器納入業者

医療機器の取扱いと深部静脈血栓予防セミナー

開催日 平成20年10月24日

講師 医療機器納入業者

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備

(有)・無)

- ・医療事故が発生した場合には、それが重大なものであれば当事者から口頭で主治医・診療科長をとおして医療安全管理者に報告され、医療安全管理者が医療安全部長・診療部長である副院長、病院長へと報告する。その後速やかに主治医・当該部門リスクマネージャが、所定の医療事故報告書で事故の詳細を報告するシステムとなっている。
- ・事故調査委員会、医療問題検討委員会は、病院長を委員長とし、副院長、医療安全管理者、看護部長等で構成し、提出された事故報告書に基づき主治医・看護師長他関係者から事情聴取を行い、事故原因の調査・分析をし、改善策の立案・指導を通して医療安全体制の確保を目指している。
- ・インシデントは、当事者から部門リスクマネージャを通し医療安全部（医療安全管理者）へ提出される。提出されたインシデントレポートは、事例によっては医療安全管理者が事実確認等の詳細な調査を行うと共に独自に分析・検討し現場へ改善策等の指導を行うとともに、分析結果を現場へ通知し、情報を共有して事故の発生防止に努める。

・その他の改善のための方策の主な内容

【安全対策委員会及び事故調査委員会、医療問題検討委員会で策定・指導した改善策】

- ・患者・家族への説明と同意について（立会い看護師）  
患者・家族への説明・同意には、看護師が必ず立ち会う。同意書は立会い看護師が確認し、医師と共に署名する。
- ・予後告知患者への病状説明について  
チーム医療として連携するため、電子カルテ上の病状告知チェック欄を有効に活用する。電子カルテメール（鯨メール）を活用し、医師間で意思の疎通を図る。
- ・腎瘻カテーテルの自己切断防止について  
入院パンフレットに、はさみやナイフは患者の状態により持ち帰り願うと記載し周知する。
- ・薬剤処方量間違いの防止について  
粉末の抗生剤を処方オーダーする場合は、力価をmgで表示選択する。
- ・麻薬の取扱いについて  
麻薬に関するポスターを作成し各部署に配布。麻薬取扱いに関する院内・院外の研修会に積極的に参加させる。（院内研修 9/10 実施）

- 内服薬投与忘れ防止について  
口頭申し送りはせず、ワークシートやメモで申し送る。また与薬車を活用し、患者トレイに「内服未」と書いたカードを挿入する。
- 採血検体の取り違い防止について  
1 患者 1 ラベルが原則だが、必要な場合 2 枚分発行できるように、運用システムに追加する。
- 規格間違いでの内服薬払出し防止について  
薬剤調剤者・監査者の責任を明確にするため、処方箋の薬剤・規格名に調剤者は○を付け、監査者は✓を重ねる。
- 血液製剤過剰投与防止について  
液体薬剤規格表示に量 (ml) 表示も加える。
- X-P ポータブルでの患者重複撮影の防止について  
OP室術中写真マニュアルにカセットの事前消去と撮影後放射線技師が出向いて、術医に画像確認依頼を行うことを追加する。

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本事項</li> <li>3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本事項</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本事項</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	有 ・ 無
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染管理組織とシステムの構築</li> <li>2. 院内感染サーベイランス</li> <li>3. 感染に対するコンサルテーション</li> <li>4. 感染管理教育</li> <li>5. 職業感染防止</li> <li>6. 感染防止技術：マニュアル作成・改訂</li> <li>7. ファシリティ・マネジメント</li> </ol>	
③ 従業員に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全職員対象 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「大学病院における感染・医療安全対策」 開催日時：2009年7月24日 講師：一山 智 京都大学附属病院副院長</li> <li>2) 「NICUの感染対策」 開催日時：2009年8月7日 講師：青木雅子 富山大学附属病院NICU副看護部長</li> </ol> </li> <li>2. 新採用者対象全員「新入職員オリエンテーション」開催日時：2009年4月2日 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コメディカル対象：開催日時：2009年4月4日</li> <li>2) 研修医対象：開催日時：2009年4月7日</li> <li>3) 看護師対象：開催日時：2009年4月6日</li> </ol> </li> <li>3. 看護師2年目・准看護師対象：開催日時：2009年6月15日</li> </ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染症対策マニュアルの改訂</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染管理体制の中で、リンク委員規定・感染制御部門の運営基準内容を変更し追加した。</li> <li>2) 感染症法に基づき届出が必要な感染症、鳥インフルエンザ・擬似症を追加し食中毒を削除。</li> <li>3) 針刺し・切創、粘膜暴露の内容を修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受傷者は、全て消化器内科に受診から受傷する原因となった相手の主治医・代行医・担当医に受診し、検査結果により、HBs抗原陽性・HCV抗体陽性の場合は消化器内科、HIVのリスクがある(疑いがある)場合は血液・リウマチ膠原病科が診察を担当する。</li> </ul> </li> <li>4) その他事務組織変更に伴う箇所を変更した。</li> </ol>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 平成20年4月4日(金)「薬剤の処方と麻薬の取り扱い」 演者：薬剤部長 西尾浩次 対象：研修医 平成20年9月10日(水)「麻薬・向精神薬の取り扱い」 演者：薬剤部主任 政氏藤玄 対象：新任看護師、研修医 平成20年12月17日(水)「注射薬についてのリスクマネジメント」 演者：薬剤部主任 高橋喜統 対象：新任看護師、研修医	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( ① 有 ・ 無 ) ・ 業務の主な内容： 医薬品の採用・購入に関する事項 医薬品の管理に関する事項 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項 他施設(病院、薬局など)との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( ① 有 ・ 無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 薬剤部内での安全対策に関する会議を月1回開催し、問題点、解決方法を検討し、薬剤部員へ周知後実施。手順書の変更が必要な場合は、この会議で手順書の変更の承認を得た後、安全対策委員会で承認を得る。	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有 ・ 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>人工心肺及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー発生装置等の装置、機器類について年2回の研修を実施。研修内容としては主に、安全性、有効性、基本的な操作方法、保守管理、トラブル時の対応そして法令等の遵守事項等について実施している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の策定 (○有 ・ 無 )</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>当院では機器管理部門であるME部が機器の保守管理を行っており、管理機器保守点検計画書（人工心肺及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー発生装置を含む）の年間計画に従って実施。基本的にメーカー提供の機器マニュアル、及びメーカー指示（点検内容、点検期間、頻度）に従いチェックシートを作成し臨床工学技士が保守管理（通常点検、定期点検）を行っている。また人工呼吸器等、主要機器のオーバーホール等はメーカーに委託して行っている。</p> <p>（注：診療用高エネルギー発生装置は中央放射線部管理）</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (○有 ・ 無 )</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>主としてメーカー、臨床工学技士会及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービス、加えて各種機器納入事業者等より関連情報を入手。院内関連部門へ通達、メール等により周知、また必要時にはメーカー・事業者と共に臨床工学技士（ME部）が協力し当該部門への直接対応等を行っている。</p>	